

國定小學讀本歌唱集

檢定濟

高等卷之四

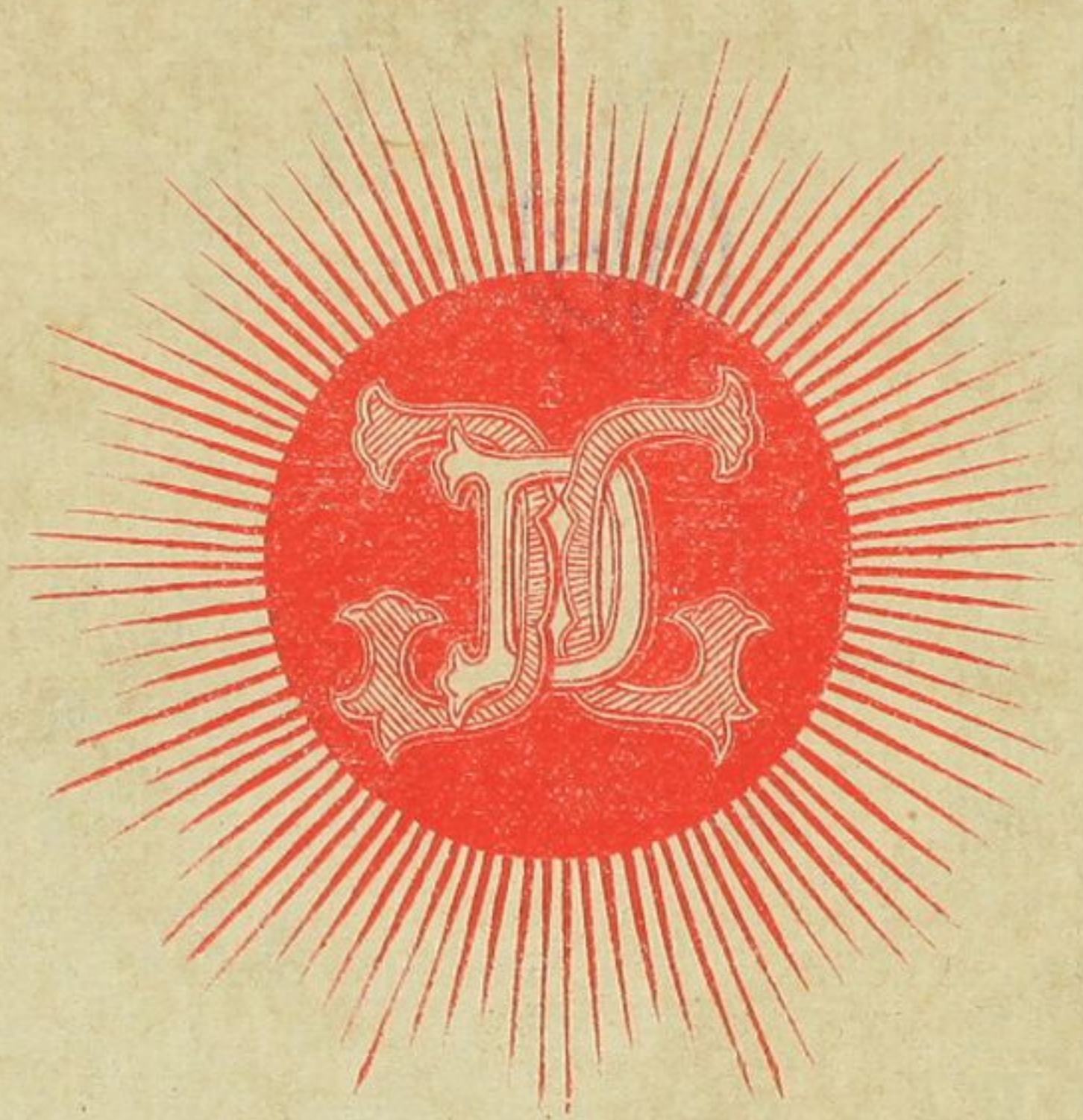


東京

元元堂書房發行



中
一
松
山
校



明治三十三年八月廿六日
文部省檢定濟

緒言

一本書ハ文部省著作高等小學讀本中ニアル韻文ニ曲譜ヲ附セ
ルモノナリ
一本書ノ曲譜ハ學校教科用及ビ家庭用ニ適應セシメンガタメ
斯道ニ多年經驗アリ令聞アル東京音樂學校教官内田桑太郎
全楠美恩三郎全岡野貞一ノ三先生ニ依囑シテ成リシモノナ
リ
一本書ノ歌詞歌曲ノ調和ニツキテハ三先生ノ特ニ注意ヲ拂ハ
レタル所ニシテ兒童ノ品性ヲ陶冶シ美感ヲ養成スルニハ極
メテ適切ナルモノト信ズ

注意 一音符ニニ文字ノ配當セルハ其音長ヲ二等分スベキモノトス

定國 小學讀本唱歌集 卷の四 (高等科四學年用)

目次

強者強國……………二
琵琶湖……………五
勸學の歌……………八
處生の歌……………一二

◎ 强者、強國。

(讀本卷七)

(一) 强者存して、弱者滅び、

強國榮えて、弱國衰ふ。

天地開けし、その時、このかた、

たれか、いづこか、この理にはづれし。

(二) 身體強くて、わづらひ知らず、

意志、また強くて、目的しおほす。

これぞ强者ぞ。强者ははだの

白きと、黄なるにかゝはるものかは。」

(三) 國民、あひ和し、實業榮え、

兵備たらひて、國威かがやく。

これぞ強國。強國は位置の

西と、東にかゝはるものかは。」

(四) 强者存して、弱者滅び、

強國榮えて、弱國衰ふ。

いでや。人々。强者となれや。

なりて、この國強からしめよや。」

強者強國

調二分の二拍子 ♩ = 72.

①

5. 5 3 3 | 1. 1 6 6 | 4. 4 3 2 | 1 2 3 0 |

キョー ー ー シヤ ソ ソ シ テ ジャ ー ク シヤ ホ ロ ビ
 し ん た い ソ つ よ く て わ ー ク ー い し ら ら ズ
 コ グ ミ シン ア ヒ ヲ シ ヲ ツ ら ー ー サ カ ら エ
 キョー ー ー シヤ ソ ソ シ テ ジャ ー ク シヤ ホ ロ ビ
 し ん た い ソ つ よ く て わ ー ク ー い し ら ら ズ

②

5. 5 6 5 | 1. 1 4 3 | 2. 2 1 2 | 3 2 1 0 |

キョー ー コ ク サ カ エ テ ジャ ク コ ク オ ト ロ
 い し ま た つ ふ く て も く て き し お ほ す
 へ ー ま イ タ タ フ ヒ テ コ ク イ カ が ヤ と る
 キョー ー コ ク サ カ エ テ ジャ ク コ ク オ ト ロ
 い し ま た つ ふ く て も く て き し お ほ す

③

5- 2 3 | 4. 6 6 6 | 5. 5 1 2 | 3 5. 1 2 0 |

アメ ツ チ ヒ ラ ケ シ ソ ノ ト キ コ ノ カ
 こ れ ぞ き ー ー し ぞ き ー ー し ば ば だ ー の
 コ レ ソ キョー ー コ グ キョー コ ク ハ イ チ ー ノ
 い て や ひ と び と きょー ー し と な れ ー や

④

3. 3 5 3 | 6. 6 5 3 | 1. 2 3 5 | 2 3. 2 1 0 ||

タ ー レ カ イ ツ コ カ コ ノ リ ニ ハ ズ レ シ
 し ー る き と き な る に コ か ノ リ ハ も ズ レ シ
 ニ ー シ シ ト こ の が シ ヲ カ カ カ ハ も ズ レ シ
 な ー シ シ ト こ の が シ ヲ カ カ カ ハ も ズ レ シ

琵琶湖

(讀本卷七)

(一)

近江には琵琶湖とて、
 その名高き湖水あり。

(二)

清らかなるは水の色、
 見れどあかぬは八つの景。
 夕日さす勢田の川、
 わたる汽車もこゝちよく、
 栗津の松の色はえて、

(三)

晴れたる空のどけさよ。
 石山の秋の月、
 雲をさまりて、影清し。

琵琶湖

に調四分の四拍子 ♩ = 96

1 1. 2 3 1 0 | 3 3. 4 5 3 0 |

アゆイかミ フムシラツ ミひやさい ニなイキツ ハすノのツ ビセアひウ ハたキとチ コのノツツ トかツまれ テはキツテ

6 6 7 2 1 7 6 | 5. 6 5 3 2 0 |

ソわグモよナ ノたチるミ ナるサのノ タキマあり カシリめへ キもテにチ ココカナカ スコゲをへ イちキえリ アよヨたユ リくシリク

3. 3 3 3 6 6 6 | 1 1. 2 3 3 0 |

キあフかヤ ヨは一たバ ラづユたセ カのノのノ ナまキうオ ルつタラキ ハのテのノ ミいサうフ ズろクキナ ノはハみビ イえナどト ロてハーン

7 1 7 6 5 5 3 1 | 2. 2 3 2 1 0 ||

ミれヒオチキ レたラクシ 下るノるカ アそタかま カーカー 一ハのノのノ ヤのクナバ ツどレガシ ノけノめシ ケさユあー イよキリチ

(四)

冬の來りてさく花は、

比良のたかねの暮の雪。

唐崎の 一つ松、

夜の雨に、名をえたり。

堅田の 浦の浮御堂、

落ち來る雁のながめあり。

(五)

三つ、五つうちつれて、

波の上を歸り行く、

矢走の 沖の舟人は、

聞きしか、三井の晚鐘を。

◎ 勸學の歌。

(讀本卷八)

- (一) 昔、もろこし朱文公、世にすぐれたる博士にて、詩をば作りていひけらく、「年わかしとて怠るな。たとへば、春の夢ぞかし。覺めも果てぬに老いゆく。」と。
- (二) 東と西と、國へだて、いにしへ、今と、世はかはり、高き、いやしき品はあれど、學の道にたづさはる人としあれば、おしなべて、かゝる歎はありぬべし。」
- (三) 春の初花、秋の月、夏の青葉に、冬の雪、移り行く世の有様に、心驚くときあらば、過ぎし月日を數へつゝ、學の業を勵むべし。」
- (四) ひとすぢなりし物まなび、昔、賢き人たちも、

- 「難し。」と、なほも歎きけり。今は、數へもあへぬまで、わかれたるをば、いかにして、おほよそ人のなしうべき。」
- (五) さはいふもの、諺に、「塵ひぢ積りて、山となり、滴つもりて、海となる。」いそぐとも、世にかひあらじ。心しづめて、いつまでも 怠らぬこそ賢けれ。」
- (六) たとひ、あまたにわたらずと、ひとふしをだに修めなば、身のためとなる、こと多し。さらずば、虫に劣るべし。蜘蛛は網はり、蜂は、又、蜜をつくるを見よや。見よ。」
- (七) 勉めや、勵め、たゆみなく、進みくゝて、よどみなく。難きことゝて厭ふなよ。學の海に、舟路あり、教の山にしをりあり。なにかおそれん。おそるまじ。」

勸學の歌

変ろ調 四分の四拍子 ♩=120

5 | 3̣. 3̣ 1̣ 1̣ | 2̣- 5 0 | 1̣. 7̣ 1̣ 2̣ | 3̣- 0 |

一 ム カ シ モ ロ コ シ シューブン コー
 二 ひ が し と に し と く に へ だ て
 三 ハ ル ノ ハ ツ ハ ナ ア キ ノ ツ キ

3̣ | 4̣. 4̣ 3̣ 3̣ | 2̣- 6 0 | 7 7 6. 5 | 5- 0 |

ヨ ニ ス グ レ タ ル ハ カ セ ニ テ
 い に し へ い ま と よ は か は り
 ナ ツ ノ ア ラ バ ニ フ ユ ノ ユ キ

5 | 4̣. 4̣ 3̣ 3̣ | 6- 7 7 | 1̣- 7 6 | 7- 0 |

シ ヲ バ ツ ク リ テ イ ヒ ケ ラ ク
 た か さ い や し き し な は あ れ ど
 ウ ツ リ ユ ク ヨ ノ ア リ サ マ ニ

7 | 3̣. 1̣ 6 6 | 2̣. 7 5 5 | 6 7 1̣. 2̣ | 2̣- 0 |

ト シーワカ シトテオコタルーナ
 ま な び の み ち - に た づ さ は - る
 コ コーロオドロクトキアラーバ

2̣ | 3̣. 3̣ 1̣ 1̣ | 2̣- 5 0 | 1̣. 7̣ 1̣ 2̣ | 3̣- 0 |

タ ト へ バ ハ ル ノ ユ メ ズ カ シ
 ひ と と し あ れ ば お し な べ て
 ス ギ シ ツ キ ヒ フ カ ズ へ ツ ツ

3̣ | 4̣. 4̣ 3̣ 3̣ | 2̣- 6 0 | 5. 5 6 7 | 1̣- 0 |

サ メ モ ハ テ ヌ ニ オ イ ユ ク ト
 か か る な げ き は あ り ぬ べ し
 マ ナ ビ ノ ワ ザ フ ハ ゲ ム ベ シ

◎ 處世の歌。

(讀本卷八)

- (一) 勤勉なれよ、物ごとに。 忠實なれよ、物ごとに。 忠實ならでは、身は立たず。
- (二) 勤勉ならでは、功成らず、 忠實ならでは、身は立たず。 親むべきは勤勉よ。 遠ざくべきは怠惰なり。 百折たわまぬ精神は、 貴ぶべきがかぎりなり。
- (三) 千辛萬苦は、われどちの 力のためす試金石。 世にある人は、たれも皆、 自立自營をはかるべし。 着實こそは功を成せ、 身を誤るは投機なり。
- (四) 他にのみすがる奴隸心、 奴隸の心持つな、ゆめ。 からだに、常に注意して、 健全なれと願ふべし。
- (五) 中にも、酒は害多く、 百病のもと、いふぞかし。 殊に、品行つゝ、しみて、 疵なき人となれよ。なれ。 儉約こそは家を興し、 身をも立つべき基なれ。

- (六) 無益の費はぶきつゝ、 いさゝかにても、財を積み。 いさゝかづつも貯へば、 塵も積りて、山となる。 規律正しく、身をもたば、 ならひ性ともなりぬべし。 約せし時間たがへぬも、 すべて約に従ふも、 常に守れる規律より 起れることよ、おのづから。 相助くるは人の道、 人あはれむは人の道。
- (七) 人の不幸を見すぐすは、 人の人たる道ならず。 不幸の人に逢ひたらば、 我身をつみて恵むべし。 かく思ひなば、我家も、 我身も、常に榮ゆべく、 社會に出でては、よき人と、 社會の人にいはるべく。 國家にありては、すぐれたる 國民とこそなるべけれ。
- (八) 重荷を負ひて、遠き道 行くにぞ似たる、人生は。 心しづかに、いそがずて、 徳をば修め智をみかき、 御國のために勵みつゝ、 國の光をかがやかせ。
- (九)

處世の歌

調四分の四拍子 ♩ = 116

1. 1 | 1-1 1. 2 | 3-0 3. 2 | 1- 1- | 5- 0 |
 キン ベン ナレ ヨ セ ノ ゴ ト ニ
 せん し ん ばん く は な に な ら ず せい こ - みちびく

5. 5 | 5- 5 5. 6 | 7- 0 1. 6 | 5- #4- | 5- 0 |
 チュ - ヅ ヅ ナレ ヨ モ ノ フ ト ニ
 た ふ と ぶ べ き が か き リ な り

1 6. 7 1 5 | 3 3. 3 3 0 | 2 7. 1 2 7 |
 キン ベン ナラデハ コー ナ ラ ズ チュ- ヅ ツ ナラデハ
 せん し ん ばん く は な に な ら ず せい こ - みちびく

5 5. 5 5 0 | 5 5 1. 5 | 6 6 6 0 | 2. 2 2 2 |
 ヨハ タ ク ズ シ タ シ ム ベ キ ハ キン ベン
 リエ- キエ- し セ ん し ん ばん く は わ れ ど う

2- 7 0 | 5 5 3. 5 | 6 6 6 0 | 2. 2 1 7 | 1- 0 |
 ヨ - ト ホ ザ ク ベ キ ハ タ イ ダ ナ リ
 の - ち か ら を た め す し き ん せ き

長尾松三郎先生著

學生必携
年表應用

新案日本歴史筆録

定價 金貳拾八錢
 普通表裝 金貳拾錢
 郵税 金六錢

世の中學校高等女學校 高學年の日本歴史教授の任に當り、教師諸君に於ける、生徒諸君に於ける、本筆録は、諸君が教授の便益を計り、學習の勞苦を減じ、而も、眞正に教授學習の目的を達せんがため、著者多年の實驗考案によりて編述したるものにて、既に多數實地家の贊同を博せるものなり、尙左に目的内容用法を略言せん

- 一、目的。本筆録は従來歴史の教授學習上至難とせる所の年時と史實との關係を容易に且明晰に聯絡密結せしめ、以て興味ある永久的記憶を作るにあり
 - 二、内容。本筆録は百年を二頁の一面として上欄に簡明なる年表を示し、下欄に學生自ら教授を受けつゝ、記入すべき筆録欄を備へ、更に新案年代記憶歌、主要人物系譜等を各面に都合よく附記せるものなり
 - 三、用法。學生諸君はこれを教室筆録帳として復習備忘録として、又年表として使用し得べし
- 本筆録を使用せば、始めて歴史教授は容易に眞正なる目的を達し得べく、歴史學習に興味ある永久的智識の收得を期し得べきなり

學生必携
年表應用
新案東洋歴史筆録
新案西洋歴史筆録

定價 金拾八錢
 郵税 金四錢
 定價 金拾八錢
 郵税 金四錢

後閑 菊野先生 校閱
 小田切 浦乃先生 共著
 (本書は文部省告示第十一號により檢定を要せざるものなり)

作法書

全壹冊

定價 金參拾五錢
 郵税 金六錢

本書は高等女學校女子師範學校及これと同程度の女學校に於ける作法教科用書に充てんがため、小田切、法貴兩先生が各流派の粹を抜きて時世に適合せしめ、數年間實地生徒に教授せられたる事項を更に後閑先生

の丁寧懇切なる校閲を経たるものなれば生徒用教科書参考書としては勿論、また教師用参考書として適切なる良書なり

二

國定小學讀本唱歌集

尋常科用三冊
高等科用四冊

定價 各金五錢
郵税 四冊迄金貳錢

尋常科明治三十七年七月二十三日
高等科明治三十七年八月二十六日

文部省檢定濟

●本書は文部省の御許可を得て發行したるものなり
●本書に類似のもの他に一二發行ありしも曲譜の良否につきては世間既に定論あり悉く本書房發行のもの
を採用に一定せり之れ本書の特に光榮とする所なり

東京音樂學校教官 岡野 貞一、楠美恩三郎 先生作曲
廣島高等師範學校助教授 橫地捨次郎先生著

國定小學讀本 新遊戯法

定價 金五十錢
郵税 金 八錢

廣島高等師範學校教諭 小山左文二先生選
國定小學讀本採用の學校にして本書を使用せざる學校の教育は佛を作りて魂を入れざるの誹を免れざるべし

高等 補習讀本

全貳冊

前篇 定價 各金貳拾五錢
後篇 定價 各金 六錢
郵税 各金 六錢

本書は高等小學校女子補習科女子技藝學校并に裁縫女學校等に於ける講讀用教科書に充てんがため小山先生が慘憺たる苦心を以て編纂せられたるものにして其文體は普通散文口語文韻文書翰文等現時世に行はるる總べての種類に涉り其内容は女徳の修養文學の趣味の育成實業的知識の供給、家政の整理國憲國法に關する思想の涵養等、一箇の文明的婦人としてはた一家の賢明なる主婦として缺くべからざる百般の事項に

涉れり、されば本書は前記諸學校の教科用書として唯一無二の良書なりと信す

- | | |
|---|------------|
| ●國の姿かまどの煙●女子の務●河瀬はる子●衣服の話●京染●しみぬき方を問はれし返事●都の春●髪●飾身の飾●石鹼と白粉●河津●バクテリア●看病●柔よく剛に勝つ●小式部内侍●歌●七首●女流の俳句●わが國の海産●濱邊の夕暮●住居●室内の裝飾●拭掃除の心得●行儀作法●茶の湯と生花●製茶の話●食物●牛乳●物の煮方●贈物●田舎の祖母に遺はす文●祖母に代りて従妹より返事●但談●商人の徳義●營業主人と營業雇人と●貨幣と紙幣と●物價●儉約の話●山内一豊の妻●瓜生岩女●慈善●格言●皇太后陛下の御盛徳の一端●金剛石の御歌●格言●養蠶●特別植物●土壤種類●肥料●家禽●女子の息女に教訓する文●税所敦子の君を弔ふ●暮秋●小兒の保育●孟子の母●わが家庭●但談●わが國の鑛産●石油と石炭●燐寸●わが國の貿易●一家の經濟●西洋主婦の役目●銀行●保險●俳句●六歌仙の歌●但談●ナイチンゲール●女史●赤十字のうた●わが皇室●大日本帝國憲法●中央政府●自治制度●爵位勲章褒章●法律と命令●納税と兵役●徴兵に出でたる人の親につかはす文●同じく返事●戰捷國の女子●勅語●勅語捧讀の歌 | ●前編
●後編 |
|---|------------|

長野縣松本高等女學校長 井田竹治先生著

家庭日用理科を知るべ

全壹冊

定價 金貳拾五錢
郵税 金 六錢

本書は現時國民の缺點なりと指摘せらるる、理科的知識の缺乏を補はんがため井田先生が該博なる識見を以て著はされたるものにして日常の事物に當つて生ずる疑惑を氷解せんとせらるる、少年子女及び家政整理の重任に當らるる、良妻淑女の必らず一讀せざるべからざる良書なり

鹿兒島縣師範學校長 野島藤太郎先生著

鹿兒島藩の風教

全一冊

定價 金貳拾五錢
郵税 金 四錢

本書は鹿兒島縣師範學校長野島藤太郎先生が島津藩に於ける風教の梗概を叙せられたるものなり島津家が七百年來西方の雄鎮たりし原因を知らんとせらるる、諸君島津藩より維新の大功臣の輩出せる理由を知らんとせらるる、諸君及び未來の大國民を養成せんとせらるる、教育者諸君并に父兄諸君は必ず本書を一讀せられんことを望む

三

判事 樋山廣業先生著

法律上の婦女

定價 金五拾錢 (郵税不要)

目次 ●法律の概念 ●國家の概念 ●國體と政體 ●權利と義務 ●憲法上の婦女 ●選舉上の婦女 ●遺族扶助上の婦女 ●勳位上の婦女 ●宗敎上の婦女 ●警察上の婦女 ●刑事上の婦女 ●訴訟上の婦女 ●民法上の婦女 ●商法上の婦女 ●能力に付ての婦女 ●親族關係に付ての婦女 ●相續關係に付ての婦女 ●國籍の定まらざる場合の適用

元元堂編輯所編述

中學作文寶鑑

全六冊

春夏秋冬の卷 定價 各金貳拾錢
雜、論說の卷 定價 各金貳拾五錢
郵税金 四錢

岩内誠一先生著

綴り方教本

高等一學年兒童用

定價 金拾五錢
郵税 金 四錢

本書は著者が多年實地敎授しつゝ、編述せられたる良書なれば世間にありふれたる杜撰のものとは自ら其撰を異にせり

蜂間信吉先生校訂
元々堂編輯所編纂

高等小學讀本字解

全八冊

定價 各金五錢
郵税三冊迄金貳錢

本書は、一方に於ては敎授者參考の資となり、他方に於ては自修者の枝折となるべき良書なり

明治三十七年五月十八日印
明治三十七年五月廿一日發
明治三十七年七月十一日訂正再版發行
明治三十八年六月十日訂正十二版發行

國定小學讀本唱歌集奧附

定價	尋常の部
	上、中、下、各金五錢
	高等の部
	一、二、三、四、各金五錢

明治三十七年七月十一日訂正再版發行
明治三十八年六月十日訂正十二版發行
文部省檢定 日三十二月七年七十三治明



作曲者 内田 象太郎
全 楠美 恩三郎
全 岡野 貞一
發行者 元元堂 書房
印刷者 右代表者 東京市京橋區銀座四丁目十五番地
石川 金太郎
印刷所 株式 英舍
東京市京橋區四番屋町二十六、七番地

發兌元

東京市京橋區銀座四丁目十五番地
元元堂書店
●東京晃山堂書房 ●東京樓 ●若林書館 ●松邑三松堂 ●目黒支店 ●寶文館支店 ●大阪寶文
●館内書 ●福井品川書店 ●車樓 ●金澤宇都宮書店 ●富山中田書店 ●香川宮前書店 ●岡山細福
●武野屋 ●熊本長崎書店 ●函館魁文舍 ●旭川村 ●博多博文社 ●新瀨北光社 ●長岡目黒書店 ●西
●見書 ●仙臺 ●高田宮坂書店 ●久留米菊竹書店 ●村上 ●山形 ●札幌 ●弘前 ●柳正堂 ●長野 ●吉
●澤 ●張 ●高田 ●千葉 ●多田 ●屋 ●博多 ●文 ●社 ●新瀨 ●北 ●光 ●社 ●長 ●岡 ●目 ●黒 ●書 ●店 ●西